

# 小学校体育科の授業づくりに必要な教材研究

## －活動の仕方への意識の偏りの実態－

長澤広晟（静岡大学）

### 1. 目的

本研究の目的は、小学校体育科の教材研究において、学習内容が検討されず、活動の仕方の検討へと意識が偏ってしまっている実態を明らかにすることである。また、その要因として考えられる各教師の学習内容の考え方が異なっていることの実態を捉え、それらの問題点を現職の教師がどのように認識しているかについて把握しようとした。

### 2. 研究方法

#### ＜研究Ⅰ＞教材研究（授業計画）で検討する観点

- 1) 対象者：S県内小学校教師 43名
- 2) 調査内容と方法：授業を計画する際に検討する観点及び具体例を質問紙によって調査した。
- 3) 分析方法：SCATの手法を用いた分析を行った。

#### ＜研究Ⅱ＞異なる学習内容の捉え

- 1) 対象者：研究Ⅰの対象者より3名を抽出
- 2) 調査内容と方法：学習内容と考える項目について質問紙によって調査した。その項目の選択理由と授業実践の例をインタビュー調査によって把握した。
- 3) 分析方法：GTA（グラウンデッド・セオリー・アプローチ）の手法を用いた分析を行った。

#### ＜研究Ⅲ＞体育授業の教材研究の実状に対する認識

- 1) 対象者：研究Ⅱで対象とした3名
- 2) 調査内容と方法：研究Ⅰ・Ⅱの結果を説明し、ディスカッションを通して受け止め方を把握した。

### 3. 結果ならびに考察

#### ＜研究Ⅰ＞体育の教材研究における活動内容への意識の偏り

本調査において、【活動に関する事項】【安全面】【子どもに付けたい力】【運動量の確保】【単元構想】【必要な教具】【子どもの実態】【技能の指導法】

【評価の仕方】【運動特性】という10個の概念が授業を計画する際の観点として抽出された。これらは活動や方法の観点がほとんどであり、学習内容が検討されていない実態が明らかになった。

#### ＜研究Ⅱ＞異なる学習内容の捉え

表1は質問紙により3名の教師が学習内容として選んだ項目である。また、インタビューを通して、先生によって重要としている項目は異なり、項目ごとの関連性も異なることが捉えられ、学習内容として考えられていることが、教師ごとに異なっていること考えられた。

表1 学習内容として選んだ項目

A教諭	運動の楽しさ・喜び、見方・考え方、技能 技能の仕組み、思考力・判断力、学びに向かう力（人間性）、戦術構造
O教諭	運動の楽しさ・喜び、見方・考え方、技能 技能の仕組み、思考力・判断力、学びに向かう力、人間性、コミュニケーション能力、知識、課題解決能力
T教諭	運動の楽しさ・喜び、見方・考え方、技能 技能の仕組み、思考力・判断力、学びに向かう力、コミュニケーション能力、知識、課題解決能力、スポーツのマナー

＜研究Ⅲ＞体育授業の教材研究の実状に対する認識  
ディスカッションにおいて次のような意見が出された。（抜粋）

- ・学習内容の検討の必要性は理解できるが、何を検討したらよいかわからない
- ・あらためて学習内容は何かと尋ねられるとそこに立ち止まって考えている先生はほとんどいない
- ・学習内容を明確にするとは言うけれど、共有されるものとして位置づけられていない

### 4. 結論

本研究では、教材研究において学習内容を検討することの実状を追究し、学習内容に関する検討がほとんど行われていないこと、教師ごとに学習内容の考え方が異なっていることの内実を明らかにした。また、学習内容を検討しようとする視点がないという実態があらわになった。